

『<sup>わ</sup>環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成21年10月2日	
		作成部署	文化環境部 水環境対策課	
事業名	桂川右岸流域下水道（補助）	地区名	京都市、向日市、長岡京市	
概算事業費	450億円	事業期間	平成7年度～平成35年度	
事業概要	市街地内の雨水排除のため、市町村が整備する下水道（流域関連公共下水道）と接続し、雨水を排除するための根幹的な施設となる幹線管渠や排水ポンプ場等を整備する。【幹線管渠 延長9,179m、排水ポンプ場 3箇所】			
目指すべき環境像	対象地域では、これまでから幾度となく浸水被害が発生しているため、雨水対策事業により、府民や来訪者の生命財産を守り、災害に強く安全な暮らしを守るまちづくりを目指すとともに、周辺環境に配慮した工事の施工が必要である。			
関連する公共事業	京都市、向日市、長岡京市流域関連公共下水道事業			
評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">主要な評価の視点</td> <td style="width: 20%;">選定要否</td> </tr> </table>				
主要な評価の視点	選定要否			
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO <sub>2</sub> 排出量等)	対象地域にある桂川、西羽束師川等は、都市に存在する貴重な水辺空間であり、河川生態系を保持することが求められている。生態系を保持するため、河川改修を行わず対策に努める必要がある。	都市の地下空間を利用し、浸水対策をすることにより、河川生態系を保持する。	3
	地形・地質			
	物質循環（土砂移動）			
	野生生物・絶滅危惧種			
	生態系			
	その他			
生活環境	ユニバーサルデザイン	対象地域では、浸水被害が発生しているため、浸水対策による生活空間の改善が必要である。  市街化が進んでいるため、周辺環境に配慮した取り組みが必要である。	浸水対策により浸水被害を軽減し、生活空間の改善を図る。  建設機械については、排ガス対策型及び低騒音対策型を使用し、さらに施工方法についても、大気汚染や騒音・振動の少ない工法（シールド工法）とする。	4
	水環境・水循環			3
	大気環境			3
	土壌・地盤環境			3
	騒音・振動			3
	廃棄物・リサイクル			
	化学物質・粉じん等			
	電磁波・電波・日照			
	その他			
地域個性・文化環境	景観	対象地域では、浸水被害が発生しているため、住民との協働による雨水対策の取り組みが重要である。	幹線管渠及びポンプ場等を見学会や教育の場として活用することにより、府民の安全意識の向上を図る。	4
	里山の保全			
	地域の文化資産			
	伝統的行祭事			
	地域住民との協働			
	その他			
外部評価				

(別紙)

## 構想ガイドラインチェックリストの記載要領

- 1) 「施工地の環境特性と目標」欄：評価項目の「主要な評価の視点選定の考え方」に当てはまる項目について、下記の記載要点を踏まえて施工地地の環境特性と目指すべき方向（環境目標）についての点検を行い、できるだけ具体的に（例えば絶滅危惧種の名称等）記載すること。
- 2) 「環境配慮・環境創造のための措置内容」欄：「施工地の環境特性と目標」の記載内容に対応して実施しようとする回避措置や自然再生・環境創出等の方策について記載すること。
- 3) 「環境評価」欄：評価項目ごとの環境配慮の自己評価を記載し、「総合評価」欄には各環境評価を踏まえ、工事全体の環境配慮を自己評価し記載する。

(改善；5、やや改善；4、現状維持；3、やや悪化；2、悪化；1)

評価項目		「施工地の環境特性と目標」の記載要点
	主要な評価の視点	
地球環境・自然環境	地球温暖化 (CO <sub>2</sub> 排出量等)	・事業の実施又はそれによって設置される施設の供用に伴って温室効果ガスの著しい発生が予測されるため、発生抑制や吸収源の創出などが必要。
	地形・地質	・地域の自然環境の基盤となっている地形・地質の維持・保全・改善・回復などが必要。
	物質循環 (土砂移動等)	・河川における土砂移動機能が良(又は不良)であるため、その維持(又は改善)が必要。
	野生生物 ・絶滅危惧種	・京都府レッドデータブック掲載の「絶滅が危惧される野生生物」の生息地等が確認されたため、その維持・保全・改善・回復などが必要。
	生態系	・地域生態系の維持・保全・改善・回復などが必要。
	その他	・その他、施工地及び周辺地域における地球環境や自然環境の特性と目指すべき方向(環境目標)
生活環境	ユニバーサルデザイン	・高齢者や障がい者など社会的弱者に配慮した施設構造としていくことが必要。
	水環境・水循環	・事業前の水環境・水循環が良(又は不良)であるため、その維持(又は改善)が必要。
	大気環境	・事業前の大気環境が良(又は不良)であるため、その維持(又は改善)が必要。
	土壌・地盤環境	・事業前の土壌・地盤環境が良(又は不良～汚染、沈下、水脈分断など)のため、その維持(又は改善)が必要。
	騒音・振動	・事業の実施又はそれによって設置される施設の供用に伴って、騒音・振動の発生が予測されるため、発生抑制が必要。
	廃棄物・リサイクル	・事業の実施又はそれによって設置される施設の供用に伴って、建設廃棄物の大量発生が予測されるため、発生抑制、再使用、リサイクルなどが必要。
	化学物質・粉じん	・事業の実施又はそれによって設置される施設の供用に伴って、化学物質や粉じんによる汚染が予測されるため、汚染の防止・抑制が必要。
電磁波・電波環境・日照 その他	・事業の実施又はそれによって設置される施設の供用に伴って、電磁波、電波障害、日照障害が予測されるため、障害の防止・抑制が必要。 ・その他、施工地及び周辺地域における生活環境の特性と目指すべき方向(環境目標)	
地域個性・文化環境	景観	・京都らしい自然景観や歴史的景観、都市景観が存在するため、その維持・保全・改善・回復などが必要。
	地域の文化資産	・史跡や天然記念物、歴史的に重要な遺跡、古道、伝承、家屋(群)など地域固有の文化資産が存在するため、その維持・保全・改善・回復などが必要。
	里山の保全	・多様な生物相や農村景観の重要な要素となっている里山が存在しているため、その維持・保全・改善・回復などが必要。
	伝統的行祭事	・地域の伝統的な行祭事等が行われているため、その維持・保全・改善・回復などが必要。
	地域住民との協働	・事業の構想、設計、施工、管理などについて地域住民との協働が必要。
その他	・その他、施工地及び周辺地域における地域個性や文化環境の特性と目指すべき方向(環境目標)	